

営農情報



☆イチゴ

(担当：山下賢太)

・追肥
収穫量に応じて行うが、目安として1ヶ月にチツソ成分で1〜2kgにする。

・灌水管理
着色の色むら対策として、少量・多回数にする。

・温度管理
夜間の加温最低温度は、12月中旬までは7〜8℃、12月中旬以降は7〜10℃。

朝方 10〜15℃
午前中 25〜28℃
午後 20〜25℃
夕方 15〜18℃

にしてください(なお、高設栽培は高い方で管理する)。

・電照管理
12月は、生育を見て最高3時間点灯する。

・親株管理
10aあたり300株を植え、2月末から3月上旬でプランター・大型ポットへ移植する。

・摘葉
低温で根の動きが悪くなるため、摘葉は古葉を取る程度にする。

◎園芸関係◎

・受粉の確認

冬場の花粉発芽能力は約4日間であるので、日々ミツバチが活動しているかを確認する。

☆キンカン

(担当：朝倉章太)

水管理

果実肥大を促すため、12月上旬までたっぷり灌水(常に土が湿った状態)を行いましょ。土壌の乾燥防止、細根の発生促進を目的に、敷きワラを行いましょ。

秋冬期加温

着花が遅れた園(7月20日以降の着花)については、秋冬期に加温することで、肥大・減酸促進効果が得られます。

実施温度 昼温28℃
夜温18℃

実施時期 12月中旬まで
*着色が始まっても、12月中旬までは加温を継続しましょ。

☆菊

(担当：朝倉章太)

神馬2号の温度管理について

1. 定植から開花まで実温14℃で管理しましょ。
消灯日から収穫始めまでの日数は再電照を除いて45〜47日程

度。

2. 花芽分化温度は18℃で行うと品質が向上しましょ。

3. 低温管理でも開花遅延しにくいです。生育期に10℃以下の低温にあると開花遅延する危険性があるので注意しましょ。

再電照について

1. 神馬2号は従来の神馬より花芽分化速度が1〜2日程度早くなりましょので、花芽検鏡を行うようにしましょ。

2. 1月〜2月までの作型では再電照を行います。

4日点灯〜4日消灯〜3日点灯

*燃油コスト削減のため、ハウスビニールの隙間がないか点検を行い、古ビニール等を張って保温に努めましょ。

☆ランキンキュラス

(担当：朝倉章太)

12月より徐々に窒素・リン酸・カリの養分吸収量が上がってきたので、追肥を行いましょ(厳寒期は硝酸系液肥中心)。

できるだけ涼しくして管理しましょが、気温を下げるすぎると光合成能力の低下や地温の低下により、根の活力が下がり生育が停滞しましょ。また20℃以上の高温でも生育が停滞するため、目安として昼温は15〜20℃で管理しましょ。夜温最低は5℃以上を保つように努めましょ。

☆玉ねぎ

(担当：中村真吾)

玉ねぎ苗の植え付け後に、土壌が乾燥すると活着が悪くなり、初期生育が遅れてしまいましょ。晴天日が続くようであれば定期的な灌水作業を行ってください。また、強風によりマルチがはがれて苗が浮いてしまふことがありますので欠株がでないように定期的な培土等の対策をお願いします。

なお、この時期から降雨後のべと病の発生に注意して殺菌剤を散布する等、病害虫管理を行いましょ。

☆力ポチャ

(担当：古里桜香)

出荷時期となりましたが、害虫や、ねずみの被害には十分注意を行い選別しましょ。



☆ピーマン

(担当：山下陽平)



栽培が終了している方で、ハウス内の片付けが未完了の方は早目に取り掛かるようにし、土壤消毒の準備を整えましょう。圃場に残った残渣や罹病葉は次作の病害虫発生の原因になりますので、ハウスの外へ全て持ち出して処分しましょう。まだ収穫中の方は、樹勢や着果の状態を見極めて、次作に支障が出ないように計画立てて残りの期間の作業と準備を行きましょう。

土壌の通気性や排水性が悪い場合、植物が酸欠を起こしたり根の伸長を妨げ、生育不良を起こす可能性がありますので、次作に向けて取り組みとして天地返しや土壌改良剤の施用、暗渠排水の清掃などを検討しましょう。

☆加工ほうれん草

(担当：中村真吾)



降雨後の斑点細菌病や炭疽病の発生を抑えるために定期的な殺菌剤の散布をお願いします。草丈が5〜10cm程度になれば、雑草が生えないように中耕作業を実施しましょう。中耕によって降雨等で固くなった地表面を崩し、気相が増えて細根も広がりやすくなります。また、生育が緩慢な場合はバイトール2号の葉面散布を行います。収穫が始まったら異物混入や病害葉の混入がないように注意して行いましょう。

☆加工人参

(担当：梅木晶仁)



播種日から120〜150日で収穫を迎えますが、収穫が遅れてしまうと、しみ腐れや割れなどの地下部の病害が発生しやすくなりますので適期収穫に努めましょう。

☆加工大根

(担当：梅木晶仁)



収穫が終盤を迎えています。収穫遅れがないように計画的な作業をお願いします。また出荷時の異物混入には十分注意しましょう。

☆キャベツ

(担当：山下陽平)



収穫も終盤を迎えています。収穫前の病害虫被害に注意してください。

害虫は周年発生するコナガ、病害は低温期に発症しやすい菌核病を中心に防除を行きましょう。

コナガ対策としてはディアナSCやアフアーム乳剤、菌核病対策としてはアフエットフロアブルやパレード20フロアブルなどの収穫前日まで使用のできる薬剤を中心に防除を行きましょう。

なお、罹病株はただちに抜き取り伝染源を残さないようにし、収穫後の残渣もできる限り早く片付けるようにしましょう。

☆白ネギ

(担当：古里核香)



収穫が始まりました。A品の出荷規格は、全長58cm、軟白部が30cm以上で、葉身径が1cmから2.5cm以上(S〜2L)になります。

根切りについては、盤茎を深く切りすぎないように5mm程度は根を残すようにしましょう。

☆加工甘藷

(担当：梅木晶仁)



今年度作付を行なった圃場で収穫後のロータリーがけがまだの方は、残渣分解を行うため早めにロータリーがけを行ってください。甘藷の苗の育苗を行われる方は、育苗床の土壤消毒を行ってください。土壤消毒剤・バスアミド微粒剤 使用量20kg〜30kg/10a

作付希望者を募集しています

☆ゴーヤー

(担当：中村真吾)

令和3年度のゴーヤー作付けを希望される方は農産園芸課(担当：中村3315756)までご連絡をお願いします。

ハウス栽培では3月中旬からの定植、露地栽培では4月下旬からの定植になりますので、夏季の収入源として栽培のご検討をお願いします。

農業用廃プラスチック集積日

- ◎塩化ビニール (ハウス用ビニール等)
- ・集積場所 **えびの市一般廃棄物最終処分場**
- ・集積日 **12月15日(火)**
- ・時間 **午前9時～午後4時**

ビニールとポリマルチは混ぜないよう注意してください。廃プラスチックを出す際の注意点を●ページに掲載しています。ご確認のうえ、持ち込みをお願いします。

各品目の栽培のお申し込み・お問い合わせはJAえびの市農産園芸課(☎3315756)までご連絡ください。

オリーブ講習会中止のお知らせ
12月開催予定にしていた、県外から講師を招いてのオリーブ講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせていただきます。

営農情報

☆水稲

(担当：内村直樹)

○土壌診断をしましょう！

今年の生育結果と反省点を見直して、来年に向けての土作りを行います。土壌診断は、自分の田んぼを知る一番の近道でもあります。

申込は随時受け付けておりますが、申込状況によっては診断結果が出るまでに一か月ほど日数を要する場合がありますので早目のお申し込みをお願いします。

土壌診断の申し込み先

JAえびの市 本店
農産園芸課 (33-5756)

◎1点(1袋)あたり
1000円の診断料が必要
になります

☆そば

(担当：内村)

そばは出荷された後、農産物検査を実施しますので、新袋で23kg(袋込み)に調整したものを出荷してください。(新袋は各グリーンセンターで取り扱っています)

◎農産関係◎

また、端数についても1kg単位で受け入れを行っております。

出荷の際は、天日か乾燥機を用いて、水分を14〜15%以内に調整しましょう。

農作物検査時に選別状況が悪いと、等級が規格外になる場合や、取引先から返品される場合があります。ふるいなどを利用して、そば以外のものが混入しないようにしましょう。

水分の計測は精米工場で行っておりますので、ご利用ください。

受入について

受入期間

12月25日(金)まで

月曜日から金曜日

(土・日・祝日は除く)

受入場所

精米工場

受入時間

午前10時から午後4時まで

土壌診断をしましょう



1. 土を採る場所

田んぼの4角付近と真中の計5カ所より、それぞれコップ1杯分の土を採取。



2. 土を採る深さ

深さ10cmぐらいの所の土を採る。この時、表面の土が混ざらないように注意する。



3. 提出の手順

採取した土を新聞紙などの上で十分に乾燥します。土が乾燥したらビニール袋に入れ地区・氏名・水田の字・地番を明記しJAへ提出。

<提出先およびお問い合わせ先>

必要事項を記入したらJAへ

農産園芸課 TEL 33-5756 グリーンセンター飯野 TEL 33-2212
グリーンセンター加久藤 TEL 35-0451 グリーンセンター真幸 TEL 37-0023

- ※ 必ず乾燥した土を提出してください。診断申込書は必ずご記入ください。提出後1か月程度で診断結果がでます。(乾燥していない土は2〜3ヶ月かかります)
- ※ 1点当り、1,000円の診断料が必要です。

JAえびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。

営農情報

◎担い手支援関係◎

農地を貸したい！

農地を借りたい！

そろそろ経営リタイア
したいんだが・・・
この農地を
どうしていったらいいのか・・・
困ったなあ。



もう少し経営規模を拡大してい
きたいんだけどなあ・・・
近くで農地を貸してくれる人は
いないかなあ・・・

農地中間管理機構

活用しませんか？

農地を集約した形で経営規模を拡大したい方！

リタイアして誰かに農地を貸したい方！



私たち「農地中間管理機構（※）」があなたの大切な『農地』をお借りし、『農地』を必要としている方へお貸しします！
賃借の手続きや賃料の支払・請求も一括して機構が行います！

※農地中間管理機構は、県知事から指定された公的な機関です。

事業の活用には要件等がございますので、

えびの市役所畜産農政課（担い手対策係 35-3744）

えびの市農業委員会（35-3726）

JAえびの市（担い手支援課 33-5758）

または、宮崎県農業振興公社（農地第一課 0985-78-0210）までお問い合わせください。

農業経営者組織協議会（青色申告会）

青色申告での税務申告には多くの特典があります。節税のためにも青色申告を始めましょう。
JAえびの市農業経営者組織協議会では、通帳取引の自動仕訳等、会員様の事務負担軽減にご協力させていただいております。
随時会員の募集をしております。ぜひご加入ください。

青色申告の主な特典

- (1) 青色申告特別控除
- (2) 青色事業専従者給与の必要経費算入
- (3) 純損失の繰越控除 など

青色申告に関することは、お気軽にお問い合わせください。
担い手支援課 33-3104（担当 山下・内田）

ぼくはいや いじめするのも されるのも